飯田市竜丘公民館報
たつおか

発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報部
印刷所
平沢孔版堂
吾妻町　電(2)2057

△地区内の統一を期待する生活合理化問題△是非実行しよう

○ー　昨年の十二月二日に各団体、各層を集ー○
○ーめて生活問題研究会が開かれ、是非実行ー○
○ーしようと決議され、その実行について研ー○
○ー究されているところである。　ー○

私共日常生活の交際上で虚礼化したものが幾つかある。虚礼とは真実のないものでこんな事はやり度くないが、あそこでもやったからと見栄や虚勢を張って行なうことを言うのだが、何々祝御返しとだんだんハデになって行く。当面する大方の人達が適当な事に物心両面で随分と負担に感じ愚痴ながら不経済な苦労を続けている。生活合理化問題として課題に取上げ、公民館では研集会を続けた。不幸見舞の床上げ、香典返しはやめましょう。御礼は言葉かハガキですること。実行し易くするため地域関係では出さない。出しても受取らないこと。

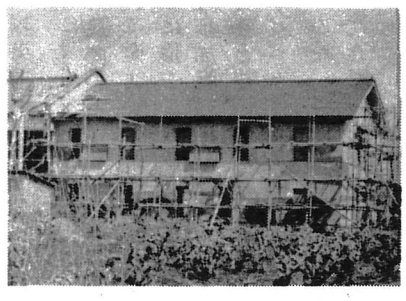
各区長とも話し合って行政機構を通じ徹底を期する様諮って貰うことにした。各区共大体異議のない申合せが出来た。だがこんな取り決めに甚く抵抗する意見もある。自由の世の中で自由を拘束するような事だとして今更なんだと、又社会的地位とか家柄、商売の取引情実が実行不可能な理由にしている方もいる。それも一理はあるが地域の住民として、その地域の大勢の人達のの好ましい事だとしての取決めに順慮する事が平和に通じる事だ。突飛なやり方、欠け離れた生活振舞は近所迷惑が多い。今実行に際して過渡期の方は格別な勇断がいることですが、お互いの生活合理化の一端として是非実行に努めることを望む次第です。

期待される繭増産
稚蚕飼育所完成する！

農協では稚蚕飼育所が不足し、ここ数年旧飼育所も使いしかも過密飼育を行なって来たが、糸価の高騰に伴い年々増加する稚蚕飼育量を消化しきれなくなったため飼育所増築にふみ切った。

昨年十二月に総工費一二五〇万円（現在の飼育所の一部施設改良を含む）で現在の飼育所の東側に延長、木造モルタル二階建（地下に貯桑室）五間×十間延三三〇平方米を増築。このほど完成した。これで既設の飼育所と合せ飼育所面積は八二五平方米となり、飼育量の最も多い春蚕期一五〇〇箱が好条件のもとに飼育される予定。暖房には最初電熱を使う予定だったが、施設費はやや高くつくが維持費の安い石油ボイラーを使うよう変更（施設費ボイラー二五〇万電熱七〇万、維持費ボイラー年二万、電熱四五～五〇万）桑運搬には、従来のものより更に能率の良いエレベーターを設置し、一回四〇〇Kgの桑を地下貯桑室から各階へ運ぶ。給桑も自動給桑機（昨年購入）を使い、序々に手間のかからない飼育にするという。今年の掃立計画は、昨年の五%増三六〇〇箱で、一三五六トンの収繭目標とのこと。

稚蚕飼育所の増設に伴い、繭増産が期待される。



三行ニュース

竜丘村誌発刊未だし、一五〇〇円もの大金をはやばやと前納してソンしちゃったナ。

× × ×

鈴岡公園に追いつき追い越せ万寿山の心意気。竜丘の観光の為に良きライバルになれ。

× × ×

農協青年部も二年目を迎えその活動に期待されるが、そのスジの御用聞きに終ルナ。

× × ×

農協のスタンド完成。場所を考えてゼニを取ることを考えた方がヨカツタミタイ。

青年の主張

会員五十名、「青年の生活と権利を守り、平和な住み良い社会建設の為に団結しよう」竜丘青年会の今年のスローガンです。今年、沖縄代表派遣は一日も早く沖縄の祖国復帰を実現させる為の大きな活動です。報告会が開かれますが、大きなカンパに協力して頂いた皆さんに沖縄の現実を訴え、我々の活動を理解して頂きたいと思います。

「沖縄を返せと叫んでも日本は戦争に敗れたのだ、沖縄は米国に取られたのだ、青年会の人達がいくら沖縄を返せと叫んでも返す筈がない」と言う言葉を耳にする。けれども三月十三日のある新聞に小学生が書いた「B五十二何故来るの？」「基地、嘉手納の子の作文が訴える」を読んで、早く日本に返して下さいと言う気持を新にしました。

それには「佐藤総理大臣が沖縄の人々はB五十二がとまっているからと言って、戦争が来ると考えるのは行き過ぎである……と言った様ですが、私にはなぜ戦争が来ると考えるのが大げさであるのか解らない。本土にはB五十二が行っていないから不安がわからないのかも知れない。嘉手納の人々は佐藤総理の事を〝沖縄を日本と差別してのんきな人だ〟といっています。本当です。

皆で考えよう
沖縄復帰

我慢しろったってB五十二の事を我慢出来ません。早く私達の苦しみをわかって下さい。「爆音、燃える井戸、今問題になっているB五十二の事も飛行場が有るからです。米国は広い土地を沢山持っているのに何故こんな小さな所に飛行場を作るのでしょう……米人は沖縄を守る為にいると言いますが、私には有がた迷惑に思えます」

「何時になれば本当の平和が来るのだろうか？　風さん、お願い、沖縄の黒い霧を力いっぱい吹きとばしてよー」

読み終って、現地の人々がどんなに苦労していたかが伺える様な気がしました。沖縄視察代表派遣団の皆さんの報告と共に、地区内の皆々さんに我々の活動を充分に理解して下さる様に願います。

木下老人学園長逝去

長い間竜丘老人学園の園長として活躍されていた木下茂一氏が、四月一日八十四才をもって逝去された。

竜丘老人学園は昭和三十五年四月発足したが、発足とともに老人クラブの活動は飛躍的な発展をみせ、その活動はやがて全県的に認められ昭和三十六年には長野県老人クラブモデル地区として指定され県下各地に活動が紹介された。こうして着実な歩みを続け昭和三十九年には飯田市社会福祉協議会長表彰を四十二年には飯田市長表彰を受けられた。発足以来八年間、竜丘老人学園長としてただひたすらに老人クラブのために尽された功績は多大であり、この逝去は老人クラブをはじめみんなから惜しまれている。

ヤブ蚊

△誘致合戦にはじまった地区内の国道も駄科地区を残すのみとなり完成に向って来た。この国道通過に対しては数々の問題を残したのではなかろうか。

△まずこのような一般国道と高速道路の性格の違い、道路が中心なのか地域開発が中心なのか。一般国道なのだから特に地域開発に重きを置くべきと思う。

△通過に際し地元の意見というものが多く出たと思われるさてこの地元とは何だろうか今日は潰地の人の意見、明日は道路関係者の意見とちぐはぐなことはなかっただろうか地域住民の要望を建設担当者に伝えるまでの縦の責任体制はしっかりしていただろうか

△こうして見ると国道に対する事前の知識や討議がもう少しなされていればと思われるものが多い。事前にあまり多くの意見が出ては工事がしにくくなるかもしれない。しかしこれは建設担当者のいうことであって地区としては多くの意見を聞き入れ、地区発展のための最大公約数の意見を要望して行くのが本筋ではないだろうか。△工事のため一般道路は洗濯板に穴のあいた状態だ。交通事故は国道の完成までは待ってはくれない。これこそ事前の対策を願たい△今後も農協合併など大きな問題が出て来ている。その場になって戸惑うことのないよう今から充分な研究をしておきたいものだ。

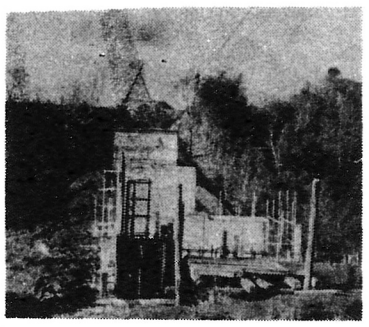
土地交渉で難行か？

〃〃道国する完つい

国道一五一号線駄科より天竜峡区間も桐林区間、新川橋、駒沢橋も今年度中にはほぼ完成される見込で、残るは駄科区間だけとなった。

当初建設事務所の方針では、駄科区間を四十二年度中には土地買収を行ない、四十三年度には着工、完成の予定で、それより二年後には全線（天竜峡～駄科）舗装の予定だったと言うが……。

現在その駄科区間は土地買収に於いて建設事務所とつぶれ地同盟組合との土地折衝がかなり難行している模様。現在駄科の国道附近の土地の商品価値は坪当り一万円は下らないと言うが、二月二十一日建設事務所より出された第一次土地価額は次のよう。坪当り宅地六三〇三円、田三七七八



円、畑二六七三円、山五九五円であったが、この値ではとても話にならないと言う訳で建設事務所と折衝した結果、三月二六日第二土地価額が発表された。それによると坪当り宅地七〇九五円、田四一二五円、畑三〇〇三円、山六二五円とされたが、土地潰地同盟組合としては坪当り一万円（宅地）を切ってはとても農地を手放す気にはなれないといい、建設事務所と潰地同盟組合の双方にはまだかなりの開きがあり、今後難行しそう。

潰地同盟組合としては四月二〇日頃迄に要望にそった土地価額を持ってこない限りはそれ以後（農繁期）には土地交渉には応じられないとのこと。

又土地買収が難行する原因として次のことが上げられる。

一、家屋の移転が多いこと（七軒）その大部分の人達が今の宅地以外に自分の土地を持っておらず、今後その人達の宅地の心配が予想される。

二、国道が掘割になる区間が非常に多いため（大井川立体交差、五・五メートル下国道）潰地が多く土地の商品価値が上らず、耕作に不便、取付道路が困難などの不利な条件が多いこと。

三、建設事務所の再三の進路変更で住民感情を刺戟していること。などが上げられる。

今後土地買収が終りしだい着工完成の予定であるとのことだが、いつ頃完成されるかの予測は立たない。

市農協出向技術員ひきあげる

飯田市はこの四月に人事異動を行ない、農協の振興室に駐在していた職員全員を本庁勤務に切りかえ、竜丘勤務の井上さんも三月いっぱいで農協から本庁にひきあげた。

市では十年前から市、普及所、農協、農業共済組合、農業委員会などが一体となり、農業技術、指導の向上をめざしてこの振興室が設置された。

農業振興室は農協の指導部と直結し、経済、行政、技術が一体となった指導体制で、地区民にサービスに努めて来たが、市としては今や地区、村単位で技術指導を考えるべきではなく、新しい農業情勢に対応した広域的な技術指導を考えるとのことから、この問題が起き、今回の処置がなされた。

人事あれこれ

（公民館）

◎分館長、駄科下平英俊、長野原小林郁夫、時又小島若一、桐林下平禎、上川路今村光治

◎分館主事、駄科下平隆司、長野原佐々木元、時又未定、桐林中島哲、上川路笹岡唯一

◎正副部長、広報部長関島東洋雄、副久保田巧、体育部長下平宣嗣、副中平明人、文化部未定

（青年会）

◎会長中島悟、副久保田公夫、副北沢伊津子

（婦人会）

◎会長鈴木さだ子、副伊坪よし、副今村よね、会計大見きさえ、増田みす、班長駄科長田添よしえ、長野原前沢治子、時又河井美寿、桐林下平とくよ、上川路森栗子

（図書館）

◎館長森義宏

（消防団）

◎分団長伊藤隆直、副分団長原寛、部長、庶務林隆治、消防増田義和、警護塩沢忠志、責任班長、駄科下平正明、桐林原功、時又山田安美、上川路金子隆一、長野原下平公次

沖縄×報×告

長野県連合青年団第五次沖縄派遣の重点地区となった竜丘青年会は、沖縄・小笠原即時無条件全面返還と渡航制限の撤廃を訴え、竜丘地区内の皆さんの力強い支援の中から代表四名を送り出し、代表団は課せられた任務を果し、無事帰りました。

沖縄の現状

井戸水の中に油

〃燃える井戸水〃

米軍の嘉手納飛行場（東洋一ベトナム発進基地）周辺における燃える井戸のある屋良地区を私達はたずねた。その農家のツルベ井戸は上をコンクリートで固められ二十センチ位の穴があいているだけにされていたが、その井戸水を汲み上げそれを牛乳瓶へ入れて見ると三分の二は黄色な燃料でその下の三分の一が水とはっきり区別できる。その汲み上げた水を道路にこぼしてマッチで火をつけてみた。すこい火勢で燃える。そこの中年の主婦は言葉少なに、「これは米軍が戦後地下に敷施した輸送用の鉄パイプが破れてしみ出したものである」と。

しかし米軍当局は「これは旧日本軍の埋設したドラム缶が原因である」との理由でその保障をしようとしない。当初その水を飲み皮フ病になったりノドをやられた人が多勢出た。燃える井戸が六ケ所、又航空機洗剤で汚染された井戸二ケ所、油で汚染された井戸八ケ所、井戸使用人百四十三名もの被害が出ている。現在水は村役所から買っている。

このように住民は「土地を取り上げられ米軍の仕事と、黙認耕作地でやっと生活している」のに、水まで買わされたのではたまったものではない」と怒をこめて語っていた。

〃黒い殺しやB52〃

B52爆撃機が沖縄に常駐して一ヶ月余りたった時、私達は沖縄に着いたのでいたる所にハリ紙がしてあり、B52の即時撤去を求める県民集会とデモ行進が行なわれ、全ての人が中学生もリボンに撤去の要求を下げて斗いに参加等、激しい米軍に対して怒と祖国復帰の要求を私達にぶっつけてきた。

〃米民政府の油断できない土地接収〃

土地接収は今数ケ所通告してきているが、最近新規の土地接収は出来なくなっている。それは「今自分達の土地を米軍に渡すことはベトナム人民を殺すことに協力することになるから」と生活を守る斗いと平和を守る斗いとを結びつけて農民が団結小屋を本土の団体や沖縄の労働者、教師の手を結んで斗っている。

随想リレー103回

この頃に思う

今村孝子

「きょうも又若いお嫁さんが一人ふえてよかったなあ」「本当に一人でも会員がふえるとうれしくなるなあ!!」「そうだなあ」と、最近あった婚礼をみて、近所の奥さんと、何気なしにした会話でした。こう言う事を喜ぶのも、若いお母さん達の会員が減少しているこの頃、役員になって欲しいと思う人達が、先を見通してどんどんとやめてしまうので、後輩に期待していることが自然に話題になってしまった程でした。小さい子供の事や家庭の事で一生懸命やっているつもりでいても、さて一歩家庭から外へ出てみて、異った角度から見た時、時代の変化と共に、物の見方、考え方が変って来ている事が、会合に出席する度に気がつき、考えて見る時一歩も二歩も遅れているような気がしてなりません。そんな時、小さい子供の為新聞もゆっくり読めない、テレビも見ておれない中で、子供を相手に、又台所仕事をしながらでも聞く事の出来る有線放送を楽しみにして、少しでも社会情勢を知り、何か参考になる事はないかしら？と気にかかるこの頃です。若いお母さんのグループがあるのにどんどんやめてしまう皆さんが何だか不びんに思われます。多くの人と交際してはじめて自分が磨かれ、自分の立場が反省させられると信じ、これからの子供の為に又社会の変化の激しい中に、多くの若いお母さん方の固いグループの結びつきによってこれからの生き方について話し合いを通して身につけましょうと呼びかけたい気持です。「健全な身体に健全な精神が宿る」と言うことを子供を育て、多くの人達と接して、はじめてわかり、母親としての健康を強く感じています。

編集後記

☆春らんまん、花見のシーズン、編集子も人の子、花に浮かれていた訳ではないが、あっちこっちつき合いもあり仲々編集がはかどらず、イヤ弁解はよそう。フンドシを締め直し、次号からは活版印刷が出来る様頑張りたい。皆さんの御協力を御願いします。☆タンブカー休みます。